

畑地区の大提灯

畑地区には昭和初期頃(1930年代)より“六歌仙”と呼ばれている大提灯が6張(個)保存されています。これらの提灯は徳田町の神社(横道下神社)の祭礼に併せて畑地区民で幟旗と同様に街頭や集会所等に飾られ親しまれていました。しかし平成13年になると徳田町各地区の幟旗をまとめて神社に合祀奉納されることになり順次この畑地区での提灯飾り付けも廃止されていったそうです。



6張の内一つのサンプルとして大提灯



①提灯外観の概要

- ・細長い丸型のもので伸ばした全長は約74cm、直径30cm。
- ・提灯側面の紙部にはそれぞれ6張に異なった昔の神様(奈良時代頃)らしき絵が彩色され描写されている。(紙、絵柄共比較的新しい)
- ・平安時代の“六歌仙”に関する衣装、絵柄等の描写はない。



絵柄反対側に書かれている“畑町内氏子中”の文字は紙の汚れ等ないのではっきり読み取れる



②それぞれの提灯には1～6の番号が墨で書かれており番号ごとの神様の絵柄は下記です。(理解し難い絵柄もあります)

- No,1 鬼(天狗)の様な風貌をしている
- No,2 竹箆を持っている
- No,3 “笙の笛”を持っている
- No,4 火(松明のようなもの)を持っている
- No,5 太鼓(鼓)を持っている
- No,6 五光がさしている

③提灯本体について

- ・側面の紙、絵柄等の損傷は殆んどなく保存状態は良い方と思う
(木枠の屋根付き飾り台も少しの損傷はあるが保存されている)
- ・昭和50年代頃に提灯業者に修理を依頼したとの話もあります
- ・外観からみて当初の製作時期ははっきりしませんが余り古い時代のも
のではない様です

④提灯飾り

古くは天災や疫病が全国的に多く発生した時期がありそれらを鎮めるために神を祀り上げ、強力な守護神に転じると考え提灯を飾り地区民の家内安全を願ったものと思われます。当時この種の提灯の絵柄は全国的にも歴史や神話(天皇や神様等)を題材とした絵柄が極彩色で描かれているのが主流であったようです。その他、近在の地域でも“六歌仙”と名の付く提灯はいくつか存在しているようです。

⑤“六歌仙”との関わり

六歌仙は平安時代に記された古今和歌集の6人の代表的な歌人のことでありこの地区に伝わる6張の提灯との関わりに十分な記録もなく明確ではありません。